



コモ ヴァイ
COMO VAI?
ロザーネです



(COMO VAI? = ポルトガル語で「ごきげんいかが?」)

第6回 私の故郷と滋賀県

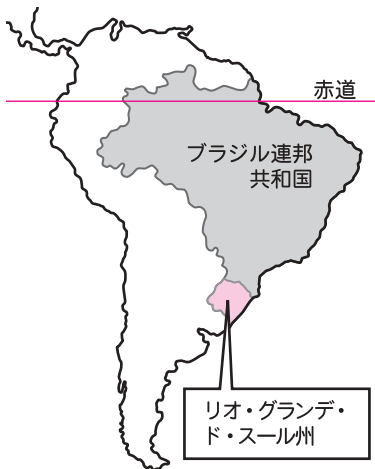
リオ・グランデ・ド・スール州

私が国際交流員としてブラジルからやってきて1年が過ぎました。何よりもこの1年間を健康に過ごし、また、貴重な経験ができたことについて、皆様に感謝しています。

さて、今回は、私の故郷のリオ・グランデ・ド・スール州(以下「RS州」)について、州の概要と、滋賀県との交流の歴史についてお話しします。RS州はブラジル最南部に位置し、西をアルゼンチン、南はウルグアイと国境を接しています。面積は滋賀県の約7倍で、日本のように温暖湿潤な気候と、はっきりとした四季があるのが特徴です。

住民は、ポルトガルやドイツ、イタリアからの移民が多く、まち並みや、人々の暮らしの中でのいたる所でヨーロッパの文化を垣間見ることができ、「ブラジルの中のヨーロッパ」と呼ばれるほどです。州都のポルト・アレグレも、古くからの建造物がたくさん立ち並ぶ都市です。また、州内では、民族舞踊やシマハオン(マテ茶)など、独特のガウシヨ(RS州民の総称)文化に触れることができます。

山岳地帯の州北部は、夏でも涼しく、ぶどうの生産に適しており、ぶどうを原



料とするワインの生産は、国内生産の大半を占めています。

このほかRS州は、米、小麦、大豆、羊毛などの生産を中心とした農・畜産業も盛んで、ブラジル国内有数の穀倉地帯です。さらに近年では、外資系企業誘致など工業政策を重視しており、工業生産量も増加しつつあります。

さて、RS州にはブラジル最大の湖「パトス湖」があります。広さがびわ湖の約15倍という、この湖が取り持つ縁で、滋賀県とRS州は昭和55年(1980)に姉妹県州提携を結びました。姉妹提携を記念して、滋賀県から日本庭園「ブラッサ・シガ」が寄贈されました。この庭園には、琵琶湖をかたどった池があり、週末にはたくさんの人々の憩いの場となっています。

滋賀県との交流

姉妹提携を結んだ後、両県州は農業技術および科学技術交流、教員や高校生の派遣など、さまざまな分野での交流を始めました。農業の分野では、滋賀県から農業青年研修団がRS州を訪問し、ブラジル式大規模農法を学び、RS州からは野菜栽培、バイオテクノロジーを学ぶために研修生が来県しています。また、水産資源の活用においても、両県州の水産技術向上のために、相互に技師を派遣して最新技術を学んでいます。

産業技術以外にも高校生の友好交流、民族舞踊団の滋賀県公演、サッカーやバレーボールなどのスポーツ交流などが盛んに行われています。4年前に姉妹提携20周年を迎えたときには、当時の県知事がRS州を訪問され、州民は法被を着て使節団の人と江州音頭を踊りました。参加した人たちは、みんな貴重な体験ができて大喜びでした。

両県州の姉妹提携は来年で25周年を迎えます。これまでの農業や工業技術交流、友好交流により、お互いに新たな発想と価値観を発見することができ、相互の地域産業の発展と活性化につながってきました。今後も交流の輪はますます広がってゆくことでしょう。

私も彦根市の国際交流員として交流の掛け橋となるよう日々頑張っています。ブラジルのこと、ブラジル人の価値観、風習などについて、もっとよく皆さんに理解していただけるよう、努力していきたいと思っています。

(彦根市国際交流員 田尾ロザーネ)